

# 「日本・アジア文化と人間」 プロジェクト研究報告

2008 Annual Report

Japan and the Asia culture, and a human being Research Project

椋山女学園大学文化情報学部

鄭麗芸

Reiun Tei

## I 平成20年度のプロジェクト・メンバー

飯塚 恵理人	文化情報学部教授
梅野 きみ子	本学名誉教授
大浦 誠士	国際コミュニケーション学部教授
荻野 恭茂	本学非常勤講師
加藤 益幹	国際コミュニケーション学部教授
李 増民	文化情報学部教授
武山 隆昭	教育学部教授
鄭 麗芸	文化情報学部教授
富田 和子	現代マネジメント学部助手
二宮 俊博	文化情報学部教授
樋口 謙一郎	文化情報学部講師
森本 伊知郎	文化情報学部准教授

## II 人間講座

9月29日(月)には平成20年度第3回人間講座を本学国際コミュニケーション学部大浦誠士教授をお迎えし、「『万葉集』山上憶良の思想と人間」をテーマに講演していただいた。歌に漢文の序などを織り交ぜた個性的な歌を残している山上憶良を「子を思ふ歌」から歌の構造や手法、憶良自身の生い立ちにまで遡って多面的に人間像を考察し、難解に思われる『万葉集』を非常に解り易く紐解いた内容の講座となった。憶良の子を思う大きな愛情と大浦先生の柔らかな語り口とが相まって、

受講者に『万葉集』への興味が更に深まったように感じられた。

## III 研究活動

上記の人間講座と並行して、本プロジェクトメンバーの、飯塚理恵人教授・二宮俊博教授・梅野きみ子名誉教授らによる、日本文化研究の活動に、以下のものが見られる。

### 1) 「をかしの会」(同好会 顧問二宮俊博教授)

本学の学生(会長：加藤旦紗季、副会長：疋田光香 会計：関原由子、書類：伊豆沙織)が毎週水曜日昼休みに、椋山人間学研究センター同室において、宮内庁書陸部本『蜻蛉日記』(上)を講読してきた。講読の方法は、くずし字の本文を翻刻し、普通の大学生が気軽に読めるように工夫して、解りやすい現代語訳を作成し、更に、中国語訳やブログ風訳を作成し、日本文化普及を目指すものである。現在の進行具合は、本書(上)全体の2/3程度の現代語訳、と中国語訳はまだ序文の段階である。今の最大の難関は、和歌の中国語訳をどのように表現しようかという問題で、現在思案中である。

なお、本同好会には、顧問は勿論の

こと、飯塚恵理人教授・梅野きみ子名誉教授も参加し、くずし字・古典の常識など、その他日本文化全般の相談に乗っている。

## 2) 「名古屋国文学研究会」

梅野きみ子名誉教授の主催する名古屋地区中心の日本文化研究会のメンバー20数名が、毎月定例第一土曜日に、椋山人間学研究センター同室において、『風葉集』の研究例会を開き、その成果は、『風葉和歌集研究報』8号・9号として発刊した。会員は、近隣の大学の教員及び、大学院生・主婦も含む、日本文化研究を目指す研究者の集まりである。

『風葉和歌集』は、平安から中世までの物語に所収された和歌からの抜粋歌、全1408首、全18巻の大部の歌集で、現在86首までの注釈を完成させ、それは会報1～9号に収載された。毎回10首

前後の歌を、それぞれが担当し発表し、その結果を会報に載せるという会である。『風葉和歌集』には、現在散逸している物語の歌も含むので、この歌集を読むことによって、散逸して物語の内容も准定されることになり、単なる歌の世界のみではない、広がりのある作品世界の研究が期待出来る。また、この研究会のメンバーは、和歌・物語のそれぞれの専門研究者の集まりであるので、日本文化普及のみではなく、学術的にも価値のある研究を目指している。

なお、名古屋国文学研究会の『風葉和歌集』の研究はまだ序の口にあるが、全員、十数年を覚悟で研究を完成させようとしている。大部の研究を纏めるにあたり、この交流会館における椋山人間学研究センターは、最も素晴らしい研究環境として感謝している。